

2015年7月17日

隅田川中流部著名橋色彩検討（その2）
色彩設計の考え方と設計案

東京都 第六建設事務所

基本理念

これまでの色を再検証した上で、

地域の歴史・風土を活かし、

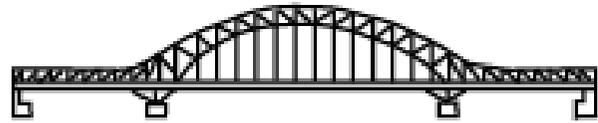
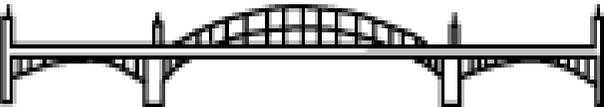
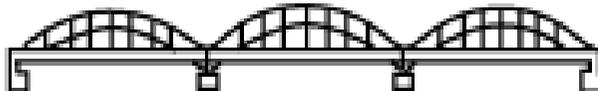
橋の品格や個性が感じられる色彩とする

～橋の多様な構造と色彩によって、隅田川の美しい景観を創出する～

基本方針

- 1) 橋ごとの個性を活かした色彩
- 2) 地域に慣れ親しまれている色彩
- 3) 地域の歴史・風土を活かした色彩
- 4) 品格ある落ち着いた色彩（彩度を抑えた色彩）
- 5) 橋の歴史を未来に伝えていく色彩

各橋の特徴と周辺環境

橋	形式	色系統	周辺環境・歴史
白鬚橋	下路式ブレースリブタイトアーチ 	白系 	<ul style="list-style-type: none"> ・開放的な水辺空間 ・白鬚神社(白系イメージ) ・橋場の渡し
吾妻橋	上路式ソリッドリブアーチ 	赤系 	<ul style="list-style-type: none"> ・賑わいある観光地 ・浅草寺(赤系) ・竹町の渡し
駒形橋	中・上路式ソリッドリブアーチ 	青系 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通の要所 ・駒形堂(屋根:青系) ・駒形の渡し
厩橋	下路式ソリッドリブタイトアーチ 	緑系 	<ul style="list-style-type: none"> ・商業・住宅地区 ・親水公園(緑系) ・御厩河岸の渡し
蔵前橋	上路式ソリッドリブアーチ 	黄系 	<ul style="list-style-type: none"> ・横網公園(銀杏並木) ・江戸期:米蔵(黄系イメージ) ・富士見/御蔵の渡し

⇒ 現行の色系統をテーマカラーとして継承しつつ、彩度を抑える

復興当初の色・意匠の思想

対象	復興当初の意匠 (帝都復興事業誌より)
色	<ul style="list-style-type: none"> ・駒形橋: 灰 (白 20 黒 1)  ・蔵前橋: 青灰 (白 100 黒 8 紺 2) 

⇒ 復興当初の色を部分的に残すことを検討する (駒形橋・蔵前橋)

対象	復興当初の意匠 (帝都復興事業誌より)
橋梁全体	<ul style="list-style-type: none"> ・構造の機能を明示し、構造に忠実なる事を第一とする

⇒ 主構造のアーチに原則的にテーマカラーを施し、橋の個性・存在感を明示

橋梁部位と形式による色彩設計の考え方

上路橋

下路橋

1) 橋梁全体

- ・ 現行色系統をテーマカラーに継承し、彩度を落とす
- ・ 全体の色数を抑え、煩雑さを軽減、統一感を創出

2) アーチ

- ・ 主構造を明示するため、原則的にテーマカラーを施す
- ・ 背景に対し適度なコントラストをつけ、頑強さ表現

3) 親柱

- ・ 高欄等の付帯構造物との調和

- ・ 特徴ある意匠のため、テーマカラーを施す

4) 主桁・高欄

- ・ 水平ラインを強調し、橋の安定感を創出
- ・ 適度なコントラストを付け、水平ラインを明確化

5) 分離柵

- ・ 安全のため背景景観と適度なコントラストをつける
- ・ 安全色と見紛うような高彩度色は避ける

6) 照明灯

- ・ すっきりした上部空間を活かした色彩

- ・ アーチと同系色にし、一体感をもたせる

シミュレーション(右岸上流視点)



アーチ N7.5
 高欄 5BG5.5/1
 主桁 N7.5



分離柵 5BG5.5/1
 照明灯 5BG4/2.5



現状



- 現状色を踏襲
- アーチと親柱はテーマカラー
- 上記主構造以外はブルーグリーンの同系色でまとめる
- 高欄部の明度を現状よりもやや暗くし、アーチ部とのコントラストを高めることで、水平ラインを強調

シミュレーション(歩道視点)



現状



- 色相の数をNeutralとブルーグリーン系の2色に抑えることで、視覚的煩雑さを抑える

アーチ	N7.5		分離柵	5BG5.5/1	
高欄	5BG5.5/1		照明灯	5BG4/2.5	
主桁	N7.5				

シミュレーション(右岸下流視点)



現状



- 中景・遠景から橋梁を臨む時にアーチ部がより強調されるよう、照明灯の色彩には、背景となる建屋外壁や空に溶け込む、穏やかなグレイ系を採用
- 地覆のダークグレイを活かし、水平ラインを強調

アーチ 7.5R 3/9

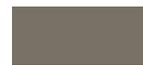
高欄 10R 3/6

主桁
(地覆) N 2.25



分離柵棧

2.5Y 5/1



照明灯

2.5Y 6.5/1



シミュレーション(歩道視点)



現状

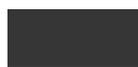


- 橋上空間をすっきりと見せるため、分離柵と照明灯は同系色を採用。適度なコントラストを両者につけることでメリハリを表現

アーチ 7.5R 3/9

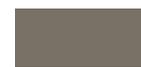
高欄 10R 3/6

主桁
(地覆) N 2.25



分離柵棧 2.5Y 5/1

照明灯 2.5Y 6.5/1



シミュレーション(右岸下流視点)



上アーチ	2.5PB3.5/5		分離柵	2.5PB7/1	
下アーチ	2.5PB3.5/5		照明灯	2.5PB5/1	
高欄	2.5PB7/1				
桁(地覆)	2.5PB7/1				

現状



- アーチと親柱にテーマカラー
- 復興当時の色 (2.5PB7/1) を高欄に用いた
- アーチ形状を強調するために、高欄・分離柵はアーチと明度コントラストを付けた
- アーチと明度コントラストをつけた高欄により、水平ラインを強調し、安定感・頑強さを表現

シミュレーション(歩道視点)



現状



- 高欄と分離柵は、アーチの青と色相を揃えた配色とし、テーマカラーの印象を引き立たせた
- 照明灯の明度は高欄よりも低くし、視覚的な煩雑さを低減した

上アーチ	2.5PB3.5/5		分離柵	2.5PB7/1	
下アーチ	2.5PB3.5/5		照明灯	2.5PB5/1	
高欄	2.5PB7/1				
桁(地覆)	2.5PB7/1				

シミュレーション(左岸下流視点)



現状



- アーチと親柱にテーマカラー
- 緑の中心色相よりも黄みに寄せると共に、現状よりも彩度を落とすことで、周辺の建造物に多く見られる暖色系外壁色と馴染む色彩とした
- アーチ形状を明確にするため、周辺建造物に対して適度なコントラストがつく明度を設定

アーチ 2.5G 4.5/2.5



地覆 2.5G 7.5/0.5



主桁 2.5G 4.5/2.5



分離柵 2.5G 7.5/0.5



高欄 2.5G 7.5/0.5



照明柱 2.5G 4.5/2.5



シミュレーション(歩道視点)



現状



- 高欄・分離柵はアーチと同一色相のオフニュートラル系色彩とし、橋梁全体の統一感を表現
- 高欄と分離柵はアーチに対して適度な明度コントラストを付け、アーチ形状を強調

アーチ 2.5G 4.5/2.5



地覆 2.5G 7.5/0.5



主桁 2.5G 4.5/2.5



分離柵 2.5G 7.5/0.5



高欄 2.5G 7.5/0.5



照明柱 2.5G 4.5/2.5



シミュレーション(右岸下流視点)



現状



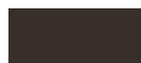
- 橋梁を構成する全ての部位を同一色相で構成し、統一感を表現
- アーチと高欄は同明度であるため、床版側面にブラック系を入れることで(セパレーション)、曖昧なコントラストを回避した

アーチ 2.5Y 7.5/6

高欄 2.5Y 7.5/1

(地覆)

床版側面 2.5Y 2/1



分離柵 2.5Y 7.5/1

照明柱 2.5Y 6/1



シミュレーション(歩道視点)



現状

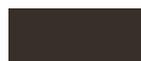


- 橋上はアーチよりも高明度低彩度トーンを採用することで、橋上空間をすっきりと表現。周辺環境色とも調和が得られやすい
- 橋上の上部空間を構成する照明灯は、高欄や分離柵よりも暗くすることで、単調さを回避した

アーチ 2.5Y 7.5/6

高欄
(地覆) 2.5Y 7.5/1

床版側面 2.5Y 2/1



分離柵 2.5Y 7.5/1

照明柱 2.5Y 6/1

